

小笠原の固有トンボ類再生・保全のための活動

NPO法人 小笠原クラブ トンボプロジェクトチーム
島田 克己¹⁾

Conservation activities for endemic dragonflies in the Ogasawara Islands

Tombo project team
Katsumi Shimada

1. 活動目的

小笠原に生息する固有トンボは5種類、私達の生活する父島では、その固有トンボをほぼ確認する事が出来ない。大きな要因は、外来生物による捕食圧である。その外来生物のいない属島では、固有トンボや他の昆虫類も数多く生息している。しかし、外来生物がいないだけで安心は出来ない。トンボが安定的に発生するためには、水場が必要である。この島々でも数年前には記録的な渇水時期があった。このようなことは、過去にも起きていることであるが、地球温暖化などによる異常気象で、巨大台風、長期の渇水などが頻繁に起る可能性もある。このようなときには人工池を避難場所的に利用している事が確認されているため、すでに研究者により設置されている人工池のメンテナンス、新たな場所の確保、生息状況のモニタリングにより固有トンボの減少を食い止めることが当面の目標で、最終的には、父島に固有トンボを復活させるのが目的である。

2. 活動実施計画

- (1)すでに設置されている池の場所確認
 - (2)池周りの環境調査
 - (3)メンテナンス
 - (4)見回り、生息状況のモニタリング
 - (5)新たな池の設置
- 以上を1年間で17回の渡島により実施した。

3. 実施結果と考察

- (1)弟島(無人島)の北から南にかけ24個の池が設置してあり、全ての池の確認をした。道が分かりづらく、その場所に行くだけでも相当の時間を要することが判明。この島には、北部の海岸(岩場)から南部の海岸(砂利浜)にかけて縦断ルートがあるが、無人島である現在は、研究者や、各関係事業者が時折ルートを使用するだけであるため、踏み分け程度のルートがあるのみである。人工池は基本的にルートの横、あるいは、少しルートから離れた場所に設置してある。全ての場所を把握するためGPSにてポイントの登録をした。何度か通ううちにGPSが無くてもどうにか通えるようになった。しかし、台風などがあると倒木や、土砂崩れにより風景が一変する。やはりGPSが必需品である。また、ボートから島に上陸するだけでもかなりのリスクがあるため、安全管理が重要である。
- (2)設置してある場所(する場所)がどんな環境の所なのか、周りの植生や、空がどのくらい見えているのか(日当たり)などを記録し、増設する池の場所選びの重要なポイントとした。
- (3)設置してある池自体が壊れている事はほとんどなかった。水質や、水量のチェックをし、落ち葉が池の中にたまり、腐食による水質の悪化がみられるものは、ヤゴの有無を確認し、全ての水をくみ出し、リセットしたものもある。限られた樹木の葉により(特にモモタマナの葉は要注意)水質

1) 小笠原クラブ 所在地 東京都小笠原村父島

の悪化が進むものもみられた。新設する池の場所
選びに重要なポイントとなる。水量に関しては、
どの池も一年を通してほぼ満水近い水量を確保
していたので問題は無かった。現在は、ノヤギが
生息しているが、近い将来(来年?)に全て駆除さ
れそうである。ノヤギのいなくなったあとの環境
変化のモニタリングも必要と思われる。

- (4) 弟島の縦断ルートは、歩くだけで一日近くを費
やすため、北部地区、南部地区に分け巡回見回
りをした。一年を通して固有トンボに限らず成虫の
姿を確認。11月ごろは、オガサワラトンボ、オガ
サワラアオイトトンボなど種の保存法に指定さ
れたトンボの姿を何度も確認できた。その後、冬
の1月2月にもオガサワラアオイトトンボの姿を
確認。初夏から秋にかけては、シマアカネ、ハナ
ダカトンボも加わり固有トンボ5種のうち4種類
のトンボを目視確認する事ができた。幼虫(ヤゴ)
は一年を通して確認できた。オガサワライトン
ボのヤゴも確認できたため、小笠原の固有トンボ
5種の生息が確認できた。弟島には固有トンボ以
外のトンボも生息している。これらのトンボや、
幼虫期の見分けが非常に難しいため、写真や、実
物を観察し、特徴を覚える必要がある。
- (5) 弟島と兄島に数箇所の候補地を検討。弟島につ
いては、すでに数ヶ所にいくつか設置されている。
トンボを兄島に誘導するためには、更に兄島

に近い場所を検討し、新設した。設置の際には、
池周りの植生や日当たりを慎重に考慮した。

兄島は、弟島より島が広いため、できるだけ広
範囲に設置する事を検討。また弟島とは環境がか
なり違うため新たな池の設置には弟島を参考に
しながらも兄島独自の環境を考慮したうえで数
箇所に設置した。今後は、弟島も兄島共に全島が
特別保護地区に制定されたため、活動も許認可を
とるだけでも大変になる。関係機関とスムーズに
事が運ぶような連携が重要と思われる。

4. 活動成果

1年を通して、トンボの生息が確認できた。

弟島の新たな池では設置から3ヶ月でオガサワ
ラトンボのヤゴが確認され、5ヶ月後には、オガサワ
ラアオイトトンボのヤゴも確認された。思ったより早
くトンボが飛来し、繁殖してくれることが分かった。
これにより広範囲にトンボが生息してくれる可能性
が広がった。

兄島の新設池からも3ヶ月ほどでヤゴが確認され
た。弟島同様、トンボの飛来は早いようである。兄
島は広い事もあり他数ヶ所に設置することによりト
ンボの生息域が格段に広がることが分かった。弟島
から兄島、そして父島への飛来も期待できる。父島
側での対策が必要である。



図1 兄島南部の新設池の場所



写真1 オガサワラアオイトトンボの羽化



写真2 新設池設置作業



写真3 新設池設置作業



写真4 新設池設置場所の探査



写真5 オガサワラアオイトトンボとオガサワラトンボのヤゴ



写真6 モニタリング

